



平成25年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2013/5/7 現在

【経済】

第1問（24点）

I

問1 A 問2 C 問3 C 問4 D 問5 A 問6 B 問7 B 問8 D
問9 C

II

問1 A 問2 E

III

問1 A 問2 C 問3 B

第2問（35点）

I

問1 C 問2 D 問3 B 問4 A 問5 D 問6 B 問7 D 問8 A
問9 D 問10 B 問11 D 問12 A

II

問1 D 問2 C

III

問1 C 問2 C 問3 D 問4 C

IV

問1 B 問2 C

第3問（13点）

問1 A 問2 B 問3 C 問4 A 問5 C 問6 B 問7 A 問8 C
問9 B

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第4問（18点）

I

問1 B 問2 D 問3 A 問4 D

II

問1 B 問2 C 問3 A

III

問1 B 問2 D 問3 D

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2013 証券アナリスト 1 次試験（春）

「経済」

今回の試験の出題レベルは標準的であったといえます。ただし、第 2 問Ⅱの国民経済計算における「家計の所得、支出、貯蓄、投資の構造」に関する表から家計の可処分所得や貯蓄を求める問題、第 2 問Ⅳのライフサイクル仮説に関する計算問題、第 4 問Ⅱのドル／ユーロ・レートに関する購買力平価・実質為替レート・予想為替レートの計算問題などは、多くの受験者にとって日頃見慣れていない内容の出題であったため、これらの側面から難しいという印象を受けられた方々もおられたかと思われます。しかし試験問題全体をよく見れば、これまでのアナリスト試験でも出題されている基本問題が多く含まれており、これら基本問題から確実に得点できることが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見えますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の出題数は、第 1 問 14 題（昨年春試験よりも 1 問減少しています。）、第 2 問 20 題（昨年春試験と同じです。）、第 3 問 9 題（昨年春試験よりも 1 問減少しています。）、第 4 問 10 題（昨年春試験と同じです。）と、全部で 53 題でした（昨年春試験よりも 2 問減少しています）。また、各大問の配点比率は、第 1 問 24 点、第 2 問 35 点、第 3 問 13 点、第 4 問 18 点と、昨年春試験と同じです。（満点は 90 点です）。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動（最適消費の条件、代替効果・所得効果、需要の所得弾力性など）、企業行動（独占と寡占）、完全競争市場、市場の失敗、状態価格、ゲーム理論、情報の経済学などから出題されています。なお、計算問題のレベルは、最近の難易度上昇傾向から転じて、標準的なものとなっています。

第 2 問（マクロ経済全般）では、国民経済計算、45 度線モデル（乗数効果）、貨幣乗数、IS-LM 分析、AD-AS 分析、消費の決定理論（ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説）、設備投資の決定理論、成長会計、貯蓄投資バランスなど、過去に出題された内容に沿った問題が多く出題されています。

第 3 問（金融経済）では、金融の基本的な取引と経済的な意味、金融機関の業務や制度、日本経済の部門別資金過不足、日銀と金融政策、財政制度と財政政策の効果など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、購買力平価、国際収支統計と国民経済計算の関係、実効為替レート、為替介入、金融政策と為替レート、購買力平価・実質為替レート・カバーなし金利平価成立のもとでの予想為替レートの計算問題といった、過去の出題内容と同じような問題が中心となっています。ただし、円／ドル・レートの計算に慣れている多くの受験者にとっては、ドル／ユーロ・レートの計算問題に戸惑ったかもしれませんが、過去にも多く出題されてきた基本問題に対する理解力が問われる問題であったといえるでしょう。

以上